

2026年度診療報酬改定率

全体改定率	+2.22%
診療報酬本体改定率	+3.09%
内訳	
1. 賃上げ分	+1.70%
2. 物価対応分	+0.76%
3. 食費・光熱水費分	+0.09%
4. 2024年度改定以降の経営悪化を踏まえた緊急対応分	+0.44%
5. 後発医薬品への置換えの進展を踏まえた処方や調剤に係る評価の適正化、実態を踏まえた在宅医療・訪問看護関係の評価の適正化、長期処方・リフィル処方の取組強化等による効率化	-0.15%
6. 1.~5. 以外の分	+0.25%
薬価改定率	-0.86%
材料価格・改定率	-0.01%

自院の医療機能の再確認と 地域ニーズに応じた転換を迫る

白鳥 峠

株式会社川原経営総合センター
病院コンサルティング部

2026年度診療報酬改定は、物価高騰と人件費上昇への対応を最優先課題に捉えつつ多岐にわたる大改定となった。中でも特筆すべきポイントや医療機関の心構え、留意点などについて、株式会社川原経営総合センター（東京都品川区、川原文貴代表取締役社長）病院コンサルティング部の白鳥峠氏に聞いた。

「2026年度診療報酬改定の全体を通して特筆すべきことは、まず、26、27年度の2段階で診療報酬が変わる点です。これにより、医療機関だけでなく、ソフトウェアベンダーなどの取引先、患者さんへの説明等、さまざま対応がタイトになることが予想されます。もう一つは、診療報酬の本体部分については、賃上げ+1・70%と物価対応分+0・76%が大多数を占めている点です。このことは、診療材料や医療技術などの医療業

界の中の変化を捉える従来型の視点から、社会情勢全体を把握する視点へと変化したことを表しています。医療機関の経営者の皆さまには、今まで診療報酬で償還されなかった水光熱費や食材費など、より幅広い視野が求められていると言えると思います」

株式会社川原経営総合センター 病院コンサルティング部の白鳥峠氏は、今回の改定についてこのように総括する。

そのうえで白鳥氏は、特に注目



白鳥峠氏